

455

亂曲集

觀世清孝改正增補

乙上

特42  
455

No 8687



笠取

中之卷

蛭

目

俱利伽羅

下之卷

丸曲

目



豆取

則一花開きぬまじく天下皆春也  
 又梅花香如白梅  
 乃其末又ありて其鳥若くはさよかけ  
 お花の粧り賞むるに似たりとて梅  
 香花並とらぬ付たり  
 即識又書柳  
 さゆり糸よりとて賞めぬ

乃らぬをいとて、教感普に所神像も  
 在道に自びく、まじき香に  
 天乃香久山と今より  
 名高し、心もあまに教感普にまじ  
 き花葉安んず、まじき香に  
 まじきあけ梅葉のうらもまじき  
 花糖のまじき、あけ梅葉のうらも  
 まじき

柳乃まゆ葉も、まじき香に  
 まじき御像あり、まじき  
 ぬらび、まじき申も宮城錦入、まじき  
 露草、雨もまじき夕日、まじき  
 まじき乃、まじきまじき葉も、まじき青れ夜も  
 まじき乃、まじきまじき山陰乃秋の香  
 まじき乃、まじきまじき山陰乃秋の香

そら城おき行り人衆袖のそそでるや木  
乃間衆雨あらしは拂くは袖やほら

蛙

昔<sup>サシ</sup>壹波守行某と<sup>サシ</sup>雲乃うる人  
あらしは海なるの宮路又行を海  
志短虫し女流おのり昔屋乃板をき  
びこもそらぬちも我衆ちよらたき  
衆妻とゆふありそらまきぬ  
まぬの袖衆名跡もらぬはな家



俱利伽藍落

去程よよ今がけりよ大勢と入るむ  
 為に十頭乃半城ありめく皆角乃  
 ことけり火をともし<sup>た</sup>逃りしひびく入る光  
 虚をよ満て<sup>上</sup>五月間たわつるあくも  
 くらき夜をくらからぬ星城集れ敵  
 大勢と心得<sup>た</sup>あつあつ<sup>た</sup>ゆるる<sup>た</sup>を<sup>た</sup>

井乃四郎六十年正月廿六日御届  
 手より此を以て  
 多れを及乃林表五萬金請うた  
 主神とのと合れを敵と物もあつた  
 くりからう父よりとわら馬の及入ちよ  
 いまま落ちりく七万金請うら  
 う答乃深しきも浅くあつた  
 あり

明治二十年十二月廿六日御届  
 明治二十一年二月六日出版

六冊

定價金八拾錢

静岡縣士族觀世世二世

改正兼出板人 觀世清孝

東京神田區猿樂町七番地  
 寄留



